

フィリピンとの掛け橋

第10号 日本聖公会九州教区宣教局フィリピン協働委員会発行

2006年11月14日

アデバン司祭滞在特集



10月1日(日)熊本聖三一教会で

アデバン司祭、2週間滞在

9月28日(木)から、10月12日(木)、フィリピン中央教区のロメル・アデバン司祭が九州教区に滞在し、熊本聖三一教会と巖原聖ヨハネ教会で主日礼拝の説教を担当、また、その前後も福岡、東京、長崎、北九州の各地を訪問し、交流を深めた。

アデバンの日程

9月28日(木)午後1時30分、福岡空港に到着。福岡の教区センターに宿泊。

29日(金)福岡周辺を見学。

30日(土)高速バスで熊本に移動。ジェーンズ邸、リ

デル・ライト記念館、菊池恵楓園を見学後宿泊。

10月1日(日)菊池黎明教会で説教、その後熊本聖三一教会で説教。共に昼食後、青年たちと熊本見学。その後熊本の坂本一家の阿蘇の家にホームステイ。

2日(月)阿蘇山、温泉などを見学後、JRで熊本へ移動。熊本聖三一教会へ宿泊。

3日(火)福岡へ移動後、江崎委員と東京へ移動し、加藤望兄と東京聖三一教会訪問。ゲストハウスに宿泊。

4日(水)カパティランを訪問。

5日(木)都内観光。

6日(金)羽田から福岡、そして巖原へ。

7日(土)フィリピン人の女性たちと礼拝。巖原聖ヨハネ教会宿泊。

8日(日)巖原聖ヨハネ教会礼拝説教。

9日(月)福岡ベテル教会礼拝堂聖別1周年記念礼拝。
夜、フィリピン協働委員会と反省会。

10日(火)長崎へ見学旅行。

11日(水)北九州を訪問。

12日(木)午後2時30分発の飛行機で離日。

目次

アデバン司祭、2週間滞在 概要	1
アデバン司祭来日(福岡での記録)	1
熊本を案内して	2
東京での4日間	3
ロメル司祭巖原訪問記	4
ロメル・アデバン司祭日本での説教	5
ロメル司祭からのファックス	6
来年のキャンプに向けて	6
今年のキャンプから(写真)	6

アデバン司祭来日(福岡での記録)

福岡ベテル教会 ルツ養田智佐子

9・28~10・12、フィリピンのロメル・アデバン司祭が日本に来られた。



左からアデバン司祭、簀田姉、安田姉（福岡市街で）私の担当は29日の福岡市内観光だった。言葉の壁、方向音痴、あ～心配がたくさん...結局去年の担当者色々としつこく聞いて、下見を2回してそれでもこわごと...

当日は、通訳の馬越姉とガイド役の安田姉を伴って私の姉に借りた車で朝9時に福岡聖パウロ教会に行き、まず国立博物館へ。ここでは特別展示はなく常設展示だけと分かっていたが、私は建物そのものが芸術だと思っていたので一番にお連れした。朝が早かったせいか人も少なく駐車場もゆっくりだった。帰る頃になってどこかのツアー客や修学旅行生で一杯になったが、その頃私たちは優雅に？ティータイム。馬越姉はあらかじめ準備していたらしい用紙を出してタガログ語を熱心に聞いていた。動く歩道や長いエスカレーターを通過して大宰府天満宮を一通り説明した後、苔寺へ。ここは日本庭園としては大濠公園や友泉亭に比べかなり小さなものではあるが、古い材木の一つ一つに味があり、池になぞらえた白砂もそれに映えるもみじの緑も最高だった。昼食は各自が好きなものを食べられるようにとホテル直営のレストランへ。司祭はスパゲティを注文されたが味が薄かったらしく、タバスコをたくさんかけた上に、口から出た言葉は、ソルト・・・ソルト・・・ソルト...。「うん？」

都市高を再び使って次は百道のマリノアシティの大観覧車へ。これはアジアで一番の高さを誇る乗り物である。司祭は特に驚いた様子もなく「ふ～ん」とただうなずいて。

あれーと思っていたら、約2名が大騒ぎ、やったー!!。これがなくちゃ...ね!!。

シーホークホテルの35階で飲茶を楽しんで次はチャンネルシティへ。櫛田神社に常設されている山笠の人形を見てもらったあとチャンネルの名物の天井、そして建物。私たちがさえ何度見ても素晴らしい。川端へ行ってご希望のゆかたと帯(子供用)そしてアシモのロボットやお茶。「ゆかたは季節外れでも川端にならきっとあるよ」と言った安田姉の勘はさすがだった。お子様は6歳の女の子をかしらに3人いらっしやるとか。お茶の入れ方飲み方は川端の女将さんが馴れた手つきで親切に教えてくれた。初めての大会で私たちは非常に緊張したが、それでも3人いたから何とか出来た。ちなみに司祭の感想は「旅の初めの心がまえが出来た」とか...。受ける私たちはベテルの一周年の記念礼拝とコンサートの準備もあり、てんやわんやの中でとにかく疲れてしまった。安田姉は「とにかく寝る」と言い、私は2～3日肩や背中が痛かった。運転手が疲れてどうすると思ったけれど。

熊本を案内して

マグダラのマリア 大館明子（熊本聖三一教会）

10月1日午後、フィリピンワークキャンプに参加したことのある青年3人と共に、ロメル司祭を熊本城と伝統工芸館に案内しました。また夜には、ホームステイ先である阿蘇の坂本姉宅で夕食を共にしました。

この交流を通して良かったと思うことは、一緒に抹茶を頂いたり、熊本名物の『いきなり団子』を食べてもらったり、熊本伝統の昔あそび「肥後ちゃんかけごま」(指定無形文化財)をやっているところを見たり、甚平をプレゼントしたりして、少しでも日本の文化、熊本の文化に触れていただくことができたことです。

そして、今回残念に思ったことは、案内する私が片言の英語さえも話せず、全く言葉を交わすことができず、無言で一緒に見て回ることしか出来なかったことです。また、司祭は日本、そして熊本のことにとっても興味を持ってくださっていたにも関わらず、日本人、熊本人である私が日本、熊本について何の興味も持っておらず、そのため日本の歴史についても、熊本城のことについても、

また文化についても全く知識を持っていなかった為、何も説明したり話したりすることが出来なかったことです。このことについては、本当に司祭に申し訳なかったと思っています。

そして司祭が話しておられた事で、一番心に残っていることは、「日本人とフィリピン人は、英語ではなくタガログ語と同本語で語すべきだと思う」と言っておられたことです。

また、私に「akiko go to!」と何度も言っていたとき、ワークキャンプに参加するよう誘ってくださったことを嬉しく思っています。

是非タガログ語を勉強して、機会があればワークキャンプに参加したいと思っています。



大館姉、江口姉、アデバン司祭、沖本姉（熊本城で）

東京聖三一教会の招請により

ロメル司祭と共に3泊4日の訪問記

江崎芳子

10月3日午後4時羽田に着くと加藤兄が迎えて下さりタクシーで聖三一教会に向かう。

日本語教師をしている加藤兄は車内で数冊の日本語まめ辞書をロメル司祭に渡し、「ようこそ」.....など幾つかの日本語を覚え帰ったら日本語を勉強したいと言っておられた。

聖三一教会に着くと長谷川司祭と奥様、今年ワークキャンプに行くはずだった中野兄、菊池さんほか数人の方たちとお会いし聖堂を案内して頂く。パイプオルガンを弾かせて頂き2076番（フィリピンの聖歌）を披露し一緒に歌った。

夕食は渋谷に出て日本料理を堪能。ロメル司祭は日本酒がお好きで「ホット酒」を飲まれた。この後加藤兄行

き付けの新宿ゴールデン街に足を踏み入れ私も初体験の場所が居心地良く深夜までいる事になり、ロメル司祭は「みずくーださい」と日本語で何回もお代わりしておられた。

翌朝5時に起きられたロメル司祭は午後のミサの準備をし、ちょうどフィリピンから帰国中の原姉と3人で東京タワーの展望台に行き真下に見える東京教区主教座聖堂、アンデレ教会ほかの景色を眺めたが、ロメル司祭は高所が苦手の様であった。

昼食はうなぎどんぶりを頂き原姉に感謝。

午後2時より聖アンデレ教会で「カパティラン」関係者の方たちのミサに出席。佐々木司祭と共に行われたロメル司祭の司式・説教・聖歌がすべてタガログ語で進みフィリピーノたちの参加がなかった事がとても残念であった。

礼拝後は松田委員長ほかスタッフとの懇談会そして夕食は歩いて近くの「おいどん」という九州の和食の店へ。ロメル司祭は「馬刺し」がお気に召したようで「美味しい」と笑顔であった。九州に居られた佐々木司祭に久々にお会いできこの事も感謝。

翌日5日はフリータイムを加藤兄の計らいで両国にある「九重部屋」を訪問。練習風景を見た後、築地場内を歩き新鮮なお寿司を朝食代わりに食し活気ある下町を散策。

「明石タイムドーム」で居留地の歴史を学び「聖路加国際病院」へ。

アポイントを取っていた上田執事にお会いし、聖ルカ礼拝堂、館内や敷地外の高層ツインタワーなどを案内して頂いた。上田執事は小林司祭と同級でハワイに9年間居られ、とても快活な方であった。午後からは加藤兄のご家族が加わりロメル司祭はフリータイムを楽しまれた。10月6日 聖三一教会の中野兄が羽田空港へ送って下さり9時20分発の飛行機で無事東京訪問を終えることが出来た。

今回お会いした方達、新しい出会いが九州教区フィリピン委員会・マニラ中央教区の交流により深い関わりが持てるように願っています。

ロメル司祭の東京の感想として

* 今までの司祭3人からは九州の同じ所、同じ話を聞かされていたので東京はとても興味があったこと。

* 九州と比較して東京の教会が大きくお金持ちに見えたこと。

*「カパティラン」の働きを知りマニラ中央教区として関わりが出来るか考えたいとの事。



ロメル司祭、江崎姉、加藤兄（新宿で）

ロメル司祭巖原訪問記

司祭 牛島幹夫

ロメル司祭が巖原に来た間にあったことを、牛島司祭が報告します。

10月6日（金）教区事務所で、今回巖原への案内役を務める牛島司祭とロメル司祭は3年ぶりに再会。その後、ロメル司祭は牛島司祭とともに福岡空港から空路対馬へ向かいました。

この日はちょうど中秋の名月。巖原の八幡神社では秋祭りが出店がたくさん出ていましたし、教会のある中村地区の半井桃水交流館でもお月見の会が開かれていました。そこで、犬の散歩をかねて、日本のお祭りとお月見を体験してもらいました。お月見の会では、ちょうど烏田和美さん（牛島司祭夫人）が着物を着て日本の秋の歌を披露していました。着物を見ることができましたし、日本の歌も紹介できてよい機会となりました。お月見の会を企画したNPOに牛島夫妻が関わっていることもあり、沢山の地域の方がロメル司祭に話しかけてくださり、ロメル司祭も地域の方との交流を喜んでいました。

10月7日（土）対馬に在住のフィリピン人のためのフィリピン語による聖餐式を行いました。午前中は聖歌の選定などの準備をし、午後2時からの礼拝です。11人のフィリピン人といっしょに礼拝することができました。全員、日本人と結婚している女性です。（フィリピン人への就労ビザが取得困難になっているとのことで、就労のための短期滞在者は今巖原にはほとんどおりません。主な働き場であったフィリピンパブなども業態を

変えたり、廃業したりしています。）

さて、本題にもどります。フィリピン語の聖餐式では、ロメル司祭がいくつかのフィリピン語と英語とを交えて説教していました。ロメル司祭の気さくな風情に笑い声がおこります。礼拝後にはフィリピンの方達が携帯電話のカメラでロメル司祭を撮ったりしていました。ロメル司祭の人柄が彼女達を引きつけている様子がよくわかりました。

夕方には、巖原に新しく出来たショッピングセンターと一緒に探検です。家族のためにおみやげを探す姿がほほえましかったです。ここでも、フィリピンの方に会うことができました。

滞在中は毎日犬の散歩につきあってもらうことで町の様子を紹介して歩くことができました。巖原は谷間にある小さな町なので、坂が沢山あって道が細くて静かで、というようなところが、故郷のマウンテンプロビンスの町に似ていると言っておられました。

10月8日（日）主日礼拝の説教をしていただきました。簡潔でわかりやすいメッセージをいただき教会員一同感謝しました。礼拝後は、お月見の会が開かれた半井桃水交流館に場所を移して昼食です。みんなのいろんな質問に対して、ユーモアを交えながら、しかし真剣に答えていただき、あっという間に2時間ほどが過ぎてしまいました。

午後には、再びショッピングセンターへ行き、昨日目星をつけていた物をおみやげに購入されておりました。10月9日（月）ベテル教会の一周年記念礼拝に参加のため、牛島司祭とともに福岡へ向かいました。



（フィリピンからの女性たちと共に・巖原で）



(東京教区聖アンデレ教会で。左は佐々木庸司祭)

ロメル・アデバン司祭の日本での説教

主よ、わが岩よ、わが贖い主よ、わが口の言葉、わが心の思いを御心にかなわしめたまえ。

キリストにある兄弟姉妹のみなさん、こんにちは。
わたしは、フィリピン中央教区とデキシー・タクロバオ教区主教とわたしの働いている聖パウロ教会、そしてわたしの家族からご挨拶を持ってまいりました。

今日、みなさんと共にあることの恵みについて、神様を賛美いたします。わたしたちを信仰によるひとつの家族として集めてくださったことについて、神様を賛美いたします。みなさんと顔と顔を合わせて、この偉大な国とその国民である皆さんの素晴らしさに出会うこの機会には、わたしのこれからの生涯にずっと大切なものとなることでしょう。年月が速く過ぎ去るとしても、今回の訪問の思い出は、ずっと、ずっと残ることでしょう。皆さんのような信仰の友と歌い、祈り、そしてそれぞれの生活を分かち合うことは、わたしたちが本当に「みんな神の民」であるということの、具体的な現れなのです。

わたしたちが、特に九州教区と、この数年の共に歩んできた旅は、人々を送ったり、受け入れたりする中で、相互の理解と協同作業という事柄において、重要な、そして感激するような結果を生み出してきました。結果として、わたしたちは定期的に連絡をとり、お互いに文書のやりとりや、相互訪問で、聖職者がここから来られたり、わたしたちの教区から訪ねたり、そして、ここ日本の信徒の人々から何人かが、定期的にフィリピン中央教区を訪ねてくださることで友情を深めてまいりました。おそ

らく、今日ここにおられる皆さんのうちの何人かは、私の教区を訪問される機会がございました。わたしは、訪問の後で、わたしたちがそれを好きかどうかにかかわらず、その出会いの経験によってその人は豊かにされ、その人が結んだ友情によって、その輪が広がる、ということ強く確信しています。

私たちの誰もが出会う、言葉の壁のような物理的限界はありますが、こちらの教区から参加の皆さんは、誰であるか、また持てるものが何であるかにかかわらず、有意義に物的、財的資源をわかちあってくださいました。それは、第一に、木や実のなる植物の植え付け。第二に、いくつかの教会のペンキ塗り。第三に、わたしたちの教区の教会プログラムへの有意義な出資ということです。わたしは、同様な活動が、継続して盛んになり、継承されてゆくことを希望し、祈ります。

聖パウロは、フィリピの信徒への手紙2章1節から11節、およびヤコブの手紙4章7節から10節において、謙遜な態度について述べ力説しています。聖書に説かれている謙遜であることと従順であることは、キリストのように行うことで、尊敬に値するものです。人が神の前にへりくだれば、その人は自分自身を実際より高く評価せず、あるがままに、強さも弱さも、プラス面もマイナス面も、成功も失敗もあるがままに、認識することができます。神の前に謙遜であるためには、神に従い、神の導きに従って歩むことです。ダビデは、詩篇39編4 - 5節でこの態度について、次のように言い表しています。

「教えてください。主よ、わたしの行く末を
わたしの生涯はどれ程のものか
いかにわたしがはかないものか、悟るように。」

御覧ください、与えられたこの生涯は
僅か、手の幅ほどのもの。
御前には、この人生も無に等しいのです。
ああ、人は確かに立っているようでも
すべて空しいもの。」

フィリピンと日本の両教区が、これからも共に祈り、相互理解を重ね、協同の働きを続けていくにあたり、一致して共に生きるようチャレンジを受け一方で、それぞれの豊かな独自の文化的背景を認め合えますように。

私たちが望み夢みる一致とは、おそらく犠牲のいる高価なものであるかもしれませんが、それが、神が私たちを召された教会であります。人々(日本・フィリピン・中国・韓国、どの国の人々であれ)キリストの下に一つになる、多様な体なのです。肌の色、言語、立場の違い、そうです、私たちの外見の違いさえ、神が私たちのそれぞれに、また教会に与えられた贈り物なのです。神は私たちをふさわしいと定められた、ある国家、ある国土、ある教会、ある家族にすえられました。それは、私たちが、自分たちに与えられたものに満足して喜び、他に神が与えられたものによって豊かにされるためなのです。

日々私たちが生きていく中で、ミカ書6章8節のみ言葉により、私たちの人生を支配すべき価値について、再び思い起こすことにいたしましょう。

人よ、何が善であり
主が何を前にお求めておられるかは、
お前に告げられている
正義を行い、慈しみを愛し
へりくだって神と共に歩むこと、
これである。

わたしは、この場をお借りして、わたしのこの訪問のために祈り、働いてくださった人々に感謝を述べたいと思います。ガブリエル五十嵐主教とフランス小林司祭、そしてあれこれと、わたしの訪問を実現させるために尽力下さった方々に心よりの感謝をささげます。

(文責・小林司祭)

ロメル司祭からのファックス

親愛なるフランス

フィリピンから挨拶を送ります。コンニチワ！あなたの教区を訪ねてから3週間以上過ぎたのですが、時が過ぎるのが早いのか、私にはまだほんの数日前の出来事のように思えます。訪問した思い出は、まだ私の心に新鮮に残っています。私の日本訪問が実り豊になるように配慮し、案内して下さってありがとうございます。

私は、既に来年のあなたのキャンプの計画について私の主教と話し合いました。彼はすべての可能性について、寛容に考えています。私の教会もキャンプ可能な候補地の一つです。できれば、それまでに、もっと日本語をうまくなりたいと思っています。

私の熊本滞在中に会った人々によるしくお伝えくだ

さい。特に菊池黎明教会の兄弟姉妹のために祈っています。私は彼らとまた、神様のもとで再会できることを願っています。

神様が祝福してくださいますように。ロメル・アデバン

(文責 小林司祭)

来年のキャンプに向けて

2004年、2005年、2006年と3年間続けたでのワークキャンプは、来年は、来年は、ロメル・アデバン司祭の提案を入れて、少し日程を長く取ろうと考えています。

今までどおり、火曜日到着の翌日から日曜日までワークと礼拝をキャンプ地で行いますが、月曜日から木曜日くらいまで、フィリピン聖公会のルーツである北のマウンテンプロビンスを訪問し、イゴロット部族の文化などに触れる小旅行を行おうと準備中です。

今年、東京聖三一教会の加藤さんが一緒に働きましたが、来年も東京聖三一教会から参加者があると思います。場所や募集定員が決まり次第、各教会には連絡いたしますので、準備ください。

例年のように、1月中に参加者を確定し、2月11日あたりに、準備の会合を持とうと思っています。

今年のワークキャンプから



バナナの木に囲まれて休憩中(インファンタで)